

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.82

2012.8.3

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

平和メッセージ

## 九条改憲を許さぬ草の根の闘いを

平和憲法・9条をまもる岩手の会 呼びかけ人 千田 功 平

改憲を第一に公約した安倍政権が国政選挙に敗北した後、改憲の動きが止まっていたが、野田政権の下、改憲派が憲法に非常事態の規定が無いとして震災を口実に改憲発議ができる審査会の審議を始め、改憲の動きを強めている。

あたかも、震災復興が進まないのは憲法に責任があるかのような口振りである。

自民党が新憲法草案を発表し、改憲派の中核である新憲法制定推進議員連盟が大会を開いた。

しかしながら、次の点から言って、改憲はけっして容易なことではない。

国会発議に必要な三分の二の議員の賛成が得られるかはいまだ定かではないこと、国民投票法でいう十八歳を成年とする法律改正は見通しがたっていないこと、全国に八千以上の九条の会ができていて、何よりも九条改憲を許さない戦争反対の国民世論が背後にあることなどである。

また、私たちは、九条改憲になれば日本は日米同盟のかけ声の下、日米が一緒になって世界のどこへでも出かけて戦争を仕掛ける戦争国家になってしまうということを広く国民に知らせる必要がある。

戦争国家の例は身近に二つある。一つは、北朝鮮である。先軍政治を標榜し、国民を貧困に貶め、長距離弾道ミサイル実験を国際世論に反して断行する独裁政治を行っている。

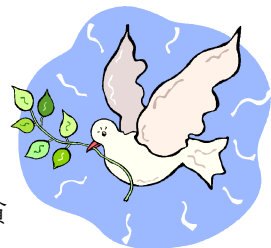
もう一つは、アメリカである。第二次世界大戦後、絶えることなく戦争を続け、産軍一体となって国全体が常に戦争を必要としている戦争体制となっており、貧困拡大の中、青年を戦争に駆りたて、治安維持法と同様の愛国者法で市民を監視弾圧している。

もし、九条改憲になれば日本も明治憲法と同様、戦争憲法となり、国民生活犠牲の下、海外派兵も日常となる戦争国家へと一気に突き進んでしまう。

私たちの日本も、わずか七十年前には北朝鮮のような戦争国家であったし、アメリカのような戦争国家になりかねない。

石原旋風、小泉旋風があったように、いま正に橋下旋風があり、大連立が囁かれる今日、いつか独裁政治が横行し、九条改憲の危険も現実のものとなりかねない。ファシズムは微笑みながらやって来ると言われている。

私たちには大メディアはなく、九条改憲を許さない署名運動、講演会、戦争体験者の語る会など粘り強い草の根の運動をやっていくしかないし、展望を切り開く唯一の道である。



### 今月の署名行動

今月は、「夕涼み街頭署名行動」として、9日(木)17:00より  
盛岡市大通り「野村証券前」にて行います。  
浴衣・甚平・半被など夏の装いでの大歓迎です。





# おはなしと映像『石ころに語る母たち』に30名参加



「9条を守るいわて生協共同購入の会」では、7月14日、いわて生協本部会議室にて、総会と記念講演会「おはなしと映像『石ころに語る母たち』」を開催し、30名が参加しました。



はじめに、北上市和賀町の詩人で、麗ら舎読書会主宰の小原麗子さんのお話を聞きました。小原さんのお姉さんは、嫁ぎ先で病気で臥せってしまい、「国の非常時に死んでいくのは申し訳ない。戦地にいる兄さん（夫）に申し訳ない」との遺書を残して、動かない体で何キロも先の踏切まで歩いて、鉄道自殺をしました。お姉さんがどうして死ななくてはならなかったのか、ずっと考え続けてきましたが、「お姉さんはお国と一体だったんだ」とわかったと話されました。また、夫を戦争で亡くした未亡人たちの話を聞いて歩いた経験から、一方では役所から「名誉の家だから間違いをおこさずに暮らすように」と言われ、一方で近所の男性から「寂しいだろう、今晚行ってやろうか」と蔑まれ、二重につらい思いをしたとのお話もありました。

次に、同じく麗ら舎読書会の阿部容子さんが絵のスライドを見ながら『石ころに語る母たち』を朗読しました。母一人子一人で苦勞して育てた息子を戦争に取られ、骨のかけらになって帰ってきた息子のためにと、10年をかけて道端にお墓をたてたお母さんのお話でした。

参加者からは「戦地や都市の空襲だけでなく、農村でもこんな悲劇がたくさんあったことを知り驚いた」などの感想が寄せられました。

その後総会を開催し、今年度計画についての確認や、8月の原水禁代表派遣者の紹介・決意表明を行いました。



(9条を守るいわて生協共同購入の会 事務局)

## コラム = 「新しい日本」(その5)について

さて、日本国憲法前文の「新しい日本」とは具体的にどんな国か、「あたらしい憲法のはなし」が「第9条」について説いているところを改めて確認しましょう。

曰く、「戦争は人間をほろぼすことです。世の中の良いものをこわすことです。だから、こんどの戦争をしかけた国には、大きな責任があるといわなければなりません。」としっかり反省しています。また、「そこで今度の憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。(①戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認 ②国際平和と外交)」と説いています。そして、「あのおそろしい戦争が、二度とおこらないように、また戦争を二度とおこさないようにいたしましょう」と熱烈に訴えています。二度と戦争をする国にならないという「新しい日本」になることを国民と世界に誓っていたのです。これが当時の国民に『民主日本』の若々しい息吹を感じさせていました。

それなのに、「衣を羽織った自衛隊」が創設され、軍備増強まで行っています。そして大連立志向で野田首相は、消費税増税、普天間基地移設、TPP、憲法改正などと、憲法改正も避けて通れない課題の一つにしています。緊迫した状況です。

“ローマは一日にしてならず！”『民主日本』の若々しい息吹を吹かせ続けて、憲法改正による「古い日本」ではなく、創造的に日本国憲法を生かす「新しい日本」の建設を訴えて行く必要があると思います。

(T)